



令和3年7月号

京都市立七条中学校

## 道徳通信

\*\*\* 学校教育目標 \*\*\*

『自主・自律・共創』

~社会や人とのつながりの中で、自らを律し主体的に学び、共に未来を創造する生徒の育成~

東京には新型コロナウィルス緊急事態宣言が発出されていますが、京都は、まん延防止等重点措置が解除され、京都らしい暑い夏を迎えてます。京都の夏と言えば、やはり祇園祭でしょうか。いまだコロナ禍ということで、今年は一部の山鉾建てのみ行われ、山鉾巡行はありませんでした。祇園祭は平安時代から約1100年も続いており、天災を起こす怨霊を鎮めるために営んだ御靈会が由来になっています。宵山は別名、屏風祭りとも言われ、旧家や老舗の伝來の屏風など、宝物が披露されます。宵山などの賑やかな雰囲気だけでなく、多くの文化的な歴史を楽しめるお祭りですので、来年の夏はこれまでと違った角度で、京都らしい夏の風物詩を楽しめますように。



さあ、夏休みです。部活動、習い事、学習、遊び、おでかけ…。多くのことを楽しんで、充実した日々を過ごしてください。夏休み明けに、元気な姿で登校してくれるのを教職員一同、楽しみにしています。くれぐれも体調管理をしっかりしましょう！

### \*-\*-\*-\*-\* 授業の様子を紹介します \*-\*-\*-\*-

1年生

#### “風を感じて一村上清加のチャレンジ”

パラリンピック陸上競技で活躍する村上清加選手。事故で右脚を失い、悩みや苦しみを感じながらも、自分らしい生き方を探すために、義足で走るグループ（ヘルスエンジェルス）に加わります。義足を着けて歩く練習から始まり、競技用義足に移行するも、その扱いに苦しみますが、弱気になりそうな気持ちを前向きな強い気持ちで抑え、努力を重ねます。そして、ついに自らの走りで風を感じることができました。その喜びが、村上選手をさらなる目標に駆り立てます。村上選手の生き方を通して、苦悩や困難との向き合い方や、希望を持って努力し続けることのすばらしさ、周囲に感謝する心が次なる目標の支えにもつながるなど、挑戦することについて考えました。

でも、失ったことで得られたものもある。  
失うと取り戻せないものもある。



#### 《ワークシートより（授業の感想）》

- 今、世の中には、病気とか障がいとかが数え切れないほどあって、いつ、自分や友達が病気になったり障がいをもったりするか分からない中で、今、コロナや他の病気と闘っている人と、どう接するかが大事なんだなと思った。
- 「無理」といって諦めるのではなく、諦めずに最後まで頑張り続けるのが大事だと気づきました。その目標に対して、ゴールしても、その上をまた目指して努力するというのが「喜び」を表す行動だと思いました。どこまでもどこまでも進んで主体的に取り組もうと思いました。チャレンジする時、この事を意識して頑張ろうと思いました。
- 村上さんのような、体の一部に障がいがある人でも、出来ることがあると考えた。健常者と同じことは出来ないかもしれないけど、その仲間同士で出来ることがある。また、競うことで楽しむことが出来ることが分かった。



## 2年生 “白ご飯を目指してー萩野公介ー”

リオデジャネイロオリンピックで大活躍した水泳選手の萩野公介さん。その栄光は、人知れぬ悩みや挫折を乗り越えてのものでした。萩野さんは自分を見つめ、不安と向き合いながら、心の安定をどう保っていたのか…。1時間は、自分が不安になったり、気持ちが乱れる時に、どうやって気持ちを整えていいのかを考えました。次の週、2時間目は、弱い気持ちや不安になるのはどんな時かをワークシートに記入し、班の仲間から、不安になった時の対処方法をアドバイスしてもらいました。「気持ちを整える」のは簡単なことではないかもしれません。しかし、これから「気持ちを整えて」挑まなければならないことが、きっとたくさんあるでしょう。そんなときに、この授業のことを思い出してください。不安があるから準備する、不安があるから乗り超えた時に成長できるのかもしれませんね。



### 『ワークシートより（授業の感想）』

- ・自分自身のままを受け止めたり、弱い自分を周りに見せてもいいのだと知った。
- ・すべきことでも、楽しむということを忘れないようにしたい。
- ・気持ちちは不安な時こそ、自分と向き合うチャンスだと捉えると、気持ちが落ち着くかも。
- ・自分が不安で崩れそうになっても、修復したりして、頑張っていけばいいのかなと思う。
- ・萩野選手の話を聞いて、自分が恥ずかしくなった。不安な時こそ、誰かに頼っていいんだ、励ましてもらっていいんだと思った。
- ・自分と向き合うというのは、最終的には自分から逃げないことなのかなと思った。実際に行動に移すには時間がかかるけど、ゆっくりやっていけたらいいかなと思う。

## 3年生

### “車いすになってわかる自分の殻を破る方法”

中学生の時に、ウイルス性の病気により突然車いす生活を送ることを余儀なくされた藤枝樹亜さん。行動を起こしたいという思いから、模擬国連などにも挑戦。また、生徒会長になりコロナ禍にあってもほぼ例年通りに学校行事を開催するなど、病気や困難を乗り越えながらも数多くのことにチャレンジしてこられました。藤枝さんが立命館宇治高校在学中にTEDで発表したスピーチを使って道徳の授業を行いました。困難を乗り越え、前向きに自分にできることに挑戦する姿が印象的で、心を動かされた人も多かったようです。授業翌日の総合学習のバーチャル修学旅行（他国の人々とzoomでつないで交流する）のサポートのために、藤枝さんが来校された際は、多くの生徒が驚き、喜んでいました。



### 『ワークシートより（授業の感想）』

- ・突然自由を奪われても、その中で、できることを一生懸命にしようという樹亜さんの力強さが印象に残った。「やらないで後悔するより、やって後悔する」という言葉はとても心に残っているので、これからも様々なことに挑戦したいと思った。
- ・車いすにならないとわからない事実が伝わってきました。中学3年生で歩けなくなったという悲しみは計り知れないものなのに、それを乗り越えて前向きに生きる姿を見て、本当にすごいと思いました。1学期で1番印象に残りました。
- ・自分だったらあきらめてしまうことを、藤枝さんはあきらめず、色々なことに挑戦していたのがとてもすごいと思った。